

〔續山の井春〕大服 大ぶくの茶もゆづり葉をいはひ哉

伊賀上野 蟬吟

〔増山の井〕おほぶく併 元日に大服にたてたる茶を大福といひなして用る事也

〔改正月令博物笈正月〕大服茶を大福と名也服の字忌服の服の字にて不吉ゆへ元日に立し

〔本朝食鑑山菓〕梅干略 本邦正月元日鶏鳴早起盥漱洗面或汲井華水沸湯新浴改服而後碾茶湯

中入梅干一箇而飲呼稱大福而祝之福服和訓通叶之義此本邦自王公至庶民爲歲初之佳例茶者

百草之魁梅者百花之魁以二魁迎青陽之神者宜哉加旂茶之芳苦清胸膈之鬱而禳一年之穢惡梅

之酸醜泄腸胃之毒而驅一年之疫邪此亦爲年初之規祝而可是何世何人之所爲乎

〔公家年事上〕正月元日 朝の御祝大服上る 御獻次第 御盃御三ツ着 居出ル者 御銚子 御陪膳典侍五衣にて勤む

〔内院年中行事〕年中御祝之次第

元日の朝の御祝大ふく上ル御盃御三ツ着 居出ル者 初獻かすの子 二獻やき 三獻ひしはなび 御銚子

子出ル 御はいせん五ツ衣にてつとむ 二日之御祝初獻居出ル者 二獻御はう 三獻御ひ 御銚子

出ル 是ハ一重衣にて御はいせん 三箇日之御祝初獻居出ル者 二獻御はう 三獻御ひ 御銚子

子出ル 是も一重衣にて御はいせん

〔日次紀事正月〕元日 若水今朝諸家新汲井水是稱若水俵 歲男汲若水人謂歳男 大服以此湯

漬鹽梅於若椀之内而合家飲之又獻賀客是謂大服用梅高年後面皮生皴而欲儆鹽梅之皴面也

〔華實年浪草正月〕上福沸福鍋中略 雜談抄ニ云和俗ニ七日ノ粥ヲ呼テ福ヲカシト云是福トハ餅

上餅ノ異名ヲ福生果ト云リ今朝粥ニ餅ヲ和シテ煮熟スルヲ云ト云々野州邊ニテ鏡餅ヲ福

出ト稱ス福生果ヨリ云ニヤ或說正月四日ニ神棚へ三個日供シタル飯汁羹ノ類ヲ撤スルヲ

煮熟シテ合家食フ是メ沸也云々

〔華實年浪草正月〕大服 吹タリ廻タリト云テ吞矢橋ニテハ是ニ異ナリ早ニ粥ヲ食テ今日ハ能キ